

**2173再構築7**

**フロット01**

**エリー**

## <名前を変えた人>

- ・主人公：ララ（エリー）
- ・ララの恋人：ロロ（アツシ）
- ・ララの娘：ルル（サリー）
- ・ララの母：ソフィー（エミリー）

## <手紙の大箱>

1 ララとロロの出会い→ララの妊娠  
父親を秘密にする（→母子の確執）

2 ララ誕生と育児

「体調不良」と「役立たないことを気にしてはっきり意見を言えない」という二重の弱さ  
ボナ先生と子どもたちとの関係が中心に

3 仕事復帰

「一人でゆっくり休めば体も回復するかもしれないから」とルルをソフィーに託すことになる。

ルルとつながりを持ちたくて、毎日メモ用紙に絵手紙を書いて届ける。

世話から解放されて起きていられる時間が増えたので、ララが仕事に復帰する。

ボナ先生が引退するが、頼ってばかりいる。

4 ルルの自立

ルルは卒寮するが自由区に出ていく。

自由区に出た後、ララがルルに父親が誰か言わないことで絶縁状態になる。

5 ボナ先生の死

頼る人がいなくなって、やっと自分の判断で動くようになる。

成功して慎重さを失い失敗する。

自信をなくして手を引こうとするが、区長に「それでは結果に対して責任をとったことにならない」と言われて、逃げずに対応し続ける。

6 母ソフィーの死とロロの引退発表

ララとルルの仲直りが、死に際のソフィーの願い

「村や他人の問題をいくら解決しても、自分の問題が棚上げでは駄目」ということがクライマックス。

最初はロロは別の女性と結婚して子どもがいるので、秘密を守ったままルルを説得する予定だった。

でも、ルルを信じているなら、打ち明けてもよいのではないかとも思う。

ここは決まってない。

7 ララとルルの和解とロロに葬儀歌手を依頼して三人が揃う

卒寮していれば、許可があれば特別に短期間保護区に入ることができる。

だから、ソフィーの初盆のために、ルルを保護区に呼んで、口口に歌ってもらう。  
もしくは、口口の最後のコンサートにララがルルを誘って行って間接的に再会する。  
ここも決まってない。

## 8 最後の手紙

手紙を受け取り続けてくれたお礼と、娘を与えてくれた感謝で短めに終わる。  
口口が独身という設定にするなら、プロポーズされてララが自由区に出てもいい。  
あるいは、毎年葬儀歌手として再会する約束をしてもいい。  
ここも決まってない。

### <ハーミットの大箱>

12月に序文を書いて、調べ物をして翌年の1月に解説文を書く。  
以下、ひと月に一通のペースで手記を書いていく。

-----

ララは、他人と深く関わり過ぎて、混乱に巻き込まれてしまう。  
ハーミットは、そんなララを最初は批判的に見ている。  
自分の問題ではないのに、他人のことに関わりすぎだと思っている。  
しかし、傍観せず、当事者として関わり続ける姿を見るうちに、自分の何が悪いのか気づく。  
最終的には、知識を得るだけで実践しない姿勢を改めて、当事者として行動することを望むようになる。

そして、「母親との関係修復」という「自分の問題」ときちんと向き合う覚悟を持つ。

## 年表

---

序文：2500年12月

ハーミットの半生と制度の解説。

1：2173年07月：運命の輪が廻る

ララ27歳（妊娠4か月）

自分の半生と妊娠を告げる手紙。

口口の半生や自由区の厳しさを解説。

・2501年01月

2：2173年08月：ルビーグレープフルーツとレモン

ララ27歳（妊娠5か月）

贈り物と老女の死。

カエデ90歳。

伏線：レモンの両端を乾燥させてポプリにする

・2501年02月

3：2173年12月：来訪者

ララ27歳ルル0歳スパイダー・コウタ7歳

スパイダーの端末解除

自分の子か他人の子か

・2501年03月

4：2174年12月：噂

ララ28歳ルル1歳スパイダー8歳口口35歳

スパイダーの嫌がらせ

口口の結婚

・2501年04月

5：2175年12月：鍋を背負う少年

ララ29歳ルル2歳コウタ9歳

コウタが鍋を背負って肉を食べるために山男の仕事に参加するようになった話

・2501年05月

6：2176年12月：ヒメカ

ララ30歳ルル3歳ヒメカ7歳

問題児のヒメカがララが住む保護区に預けられる。

ヒメカは、「ルルと遊ぶ」という口実で、ララにいろいろ要求して振り回す。

ララはルルに意地悪されたら嫌だから我慢して要求を受け入れ続けてしまう。

しかし、ガラス瓶を欲しがり、中に入っていたレモンの皮のポプリを床に捨てられて衝動的に奪い返して、追い出してしまう。

最初の予定では、ララは子どもより恋人を選んでしまった自分を責めて悩むのだけど、ヒメカ

の里親がヒメカを拒絶して、他の村に行くことになって解放される。

もし、エリーが最終的に自由区に出ていくなら、後継ぎとしてヒメカが適任なんじゃないかと思う。占いの弟子としてララがヒメカに教える。

・ 2501年06月

7 : 2177年12月

ララ 3 1 歳 ルル 4 歳

・ 2501年07月

8 : 2178年12月

ララ 3 2 歳 ルル 5 歳 コウタ 1 2 歳

・ 2501年08月

9 : 2179年12月

ララ 3 3 歳 ルル 6 歳

・ 2501年09月

=====

10 : 2180年12月

ララ 3 4 歳 ルル 7 歳 ボナ 6 7 歳

ララがソフィーに預けられる。

ララが仕事に復帰する。

ボナ引退。

・ 2501年10月

11 : 2181年12月

ララ 3 5 歳 ルル 8 歳

・ 2501年11月

12 : 2182年12月

ララ 3 6 歳 ルル 9 歳 コウタ 1 6 歳 スズ 4 7 歳

・ 2501年12月

13 : 2183年12月

ララ 3 7 歳 ルル 1 0 歳

・ 2502年01月

14 : 2184年12月

ララ 3 8 歳 ルル 1 1 歳

・ 2502年02月

15 : 2185年12月

ララ 3 9 歳 ルル 1 2 歳

春になるとルルが入寮してしまう。

・ 2502年03月

16 : 2186年12月

ララ40歳ルル13歳ソフィー66歳ボナ73歳

ボナ先生の死。

・2502年04月

=====

17：2187年12月

ララ41歳ルル14歳ソフィー67歳

・2502年05月

18：2188年12月

ララ42歳ルル15歳ソフィー68歳

・2502年06月

19：2189年12月

ララ43歳ルル16歳ソフィー69歳サク70歳

サクの死

ソラ区長の息子カイが40歳を前に保護区に戻る。

・2502年07月

20：2190年12月

ララ44歳ルル17歳ソフィー70歳

・2502年08月

21：2191年12月

ララ45歳ルル18歳ソフィー71歳

・2502年09月

22：2192年12月

ララ46歳ルル19歳ソフィー72歳

・2502年10月

23：2193年12月

ララ47歳ルル20歳ソフィー73歳コウタ27歳ソラ60歳スズ62歳

ソラが区長を引退する。まだ元気なので元の仕事の林業に戻る。

新しい区長をララがリードしていくことになる。

・2502年11月

24：2194年12月

ララ48歳ルル21歳ソフィー74歳

・2502年12月

25：2195年12月

ララ49歳ルル22歳ソフィー75歳

・2503年01月

26：2196年12月

ララ50歳ルル23歳ソフィー76歳

・ 2503年02年

27 : 2197年12月

ララ 5 1 歳 ルル 2 4 歳 ソフィー 7 7 歳

・ 2503年03月

=====

28 : 2198年12月

ララ 5 2 歳 ルル 2 5 歳 ソフィー 7 8 歳 ロロ 5 9 歳

ソフィーの死。

ロロの引退発表。

・ 2503年04月

=====

29 : 2199年07月

ララ 5 3 歳 ルル 2 6 歳 ロロ 6 0 歳

葬儀歌手の依頼。

・ 2503年05月

30 : 2199年08月

ララ 5 3 歳 ルル 2 6 歳 ロロ 6 0 歳

お礼と感謝の手紙。

もしくはプロポーズを承諾する手紙。

・ 2503年06月

## メモ

---

殴り書きみたいなメモはまだあるけど、要点だけ書いたらこんな感じです。  
空白の多さにびっくりです。

-----

2173年から2199年のララが住む保護区が舞台だから、死亡する人もいれば、誕生する子どももいるし、出ていく人も、入ってくる人もいる。

ララは、区長補佐だから、出入りする人の窓口的な役割を果たす。

相談されるし、手続きしないといけないし、他人の人生に関わることが避けられない。

-----

保護区は、自然を保護することが目的なので、自立してない人はいられない。

仕事を引退しても、自分でご飯が食べれて、トイレに行けて、風呂に入れる限り、保護区で暮らすことができる。

一人暮らしができればOK。

しかし、寝付いてしまうと、一週間で管理区の施設に移送されてしまう。

だから、一週間以内に死ぬかどうかは大きな問題。

-----

施設に入っても生き続けたいという人もいれば、管理されるのは嫌だから管理区に移送される前に死にたいという人もいるだろう。

一週間で死ぬるか不安なあまり、自ら死を選ぶ人も出るかもしれない。

ララは、ボナ先生の後を引き継いで、死の不安をやわらげる役割も期待されている。

-----

医者はいるけど、緊急手術とかには対応してない。

だから、自由区なら助かった命も、保護区では助からないことがある。

延命治療もしないし、保護区では死は身近な存在。

-----

保護区を選ぶ人は基本的に「自分の死」にそんなに重きを置いてない。

「死んだら共同墓地に入って、村を守る守護霊になる」と信じているから、死を恐れない。

しかし、「自分という存在が消えること」を恐れる人もいるだろう。

-----

保護区に入ってからララは、端末で口口の音楽を聞いたり、インタビューを読んだり、ライブ映像を見たりしている。

匿名のプレゼントが最初に来るだけで、手紙に返事は来ないけど、音楽活動を通じてどんなことを考えているのかとは分かるから、それで満足している。

そして、自分のことも知ってほしいと思って、1年に一度、手紙を送り続ける。

手紙を書くために一年を振り返ることで、気持ちを整理している。

ララの心境は決まっているけど、口口がどんな気持ちで手紙を受け取り続けるのかは決まって



ない。

-----

生と死と愛を扱うためには、すべての登場人物の生年月日とどんな人生を歩んだのかを考えないといけないことが分かって、大変だなんて思っているところです。

長い話を書いたことがないので、戸惑っている。

とりあえず、今はそんな感じです。